

例 言

- 1 本書は、平成 22 年度から 25 年度にかけて実施した、奈良文化財研究所と東京大学による連携研究の成果を取りまとめた報告書である。
- 2 本連携研究は、藤原宮跡から出土した馬の飼育形態や産地推定の復元を目的として実施したものである。本連携研究の奈良文化財研究所の担当者は石橋茂登・降幡順子・山崎健（主担当）、東京大学の担当者は米田穰・覚張隆史（主担当）である。出土品の調査には都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）考古第一研究室が協力した。写真撮影は栗山雅夫、飯田ゆりあ、中村一郎がおこなった。
- 3 本書の執筆分担は、各章の末尾に記載した。報告にあたり、深澤芳樹、玉田芳英、馬場基、山本崇、廣瀬覚、小田裕樹、諫早直人をはじめとする奈良文化財研究所員の協力を得た。
- 4 執筆に際しては、以下の方々から多くのご教示やご協力を得た（敬称略・50 音順）。ここに記して謝意を表する。
植月学、鵜野光、河村正二、菊地大樹、河野重行、齋藤めぐみ、座覇えみ、申基澈、鈴木希実、谷村好洋、富岡直人、中野孝教、本郷一美、丸山真史、望月悠佑、屋山洋、吉永淳
- 5 本書の編集は、所長松村恵司のもと、石橋茂登と降幡順子の協力を得て、山崎健がおこなった。